

マネージメント情報

※ と場卵巢×ホル♀精液 IVF 体外受精卵作出について

今月から隔週でと場卵巢×ホル♀精液の体外受精卵を作っています。

お客さん(Y 農場)の希望で牛群のホル判別精液(最近は分離精液という方が一般的)を成牛に積極的に使いたいということで、同じ精液で体外受精をしてできた受精卵を、同期化をして授精(プログラム授精、例としてCPC)後7日目に追い移植をするという手法でおこないます。

と場卵巢での体外受精ですので、この受精卵で妊娠して生まれた子牛は登録はとれません人工授精で妊娠して生まれた子牛でしたら登録は可能です。

Y農場さんの場合には、子牛が生まれたらDNA検査を実施して母親を確定することになっていきます。Y農場さんの場合は市場で購入しても、遺伝的なことは殆ど考慮しないで売買されてくるのだし、体外受精卵の精液は新しい種雄牛を使うわけだから登録がとれなくてもかまわないという考えで今回の取り組みに至りました。

私なりに昨今の登録の意味を考えると無登録でもホル♀はホル♀ですし、それで乳価が決まるわけでもないですので、今回の取り組みには期待しています。

ホル♀体外受精卵の料金は1卵…¥10,000(税別)になります。

今回の精液はキングスラムソン ドミンゴ ET (507H8361)を使用しています。

現在の予定では、ホル♀の新鮮卵を供給できる日にちは以下のとおりです。

4/17-18

5/1-2

この後はゴールデンウィークに入ってしまうので、日程はまだ確定していませんが興味のある方はご一報下さい。

もう一つ、今週からしばらくの間、毎週木曜日にもと場から卵巢を搬入しF1の体外受精卵を作ります。火・木・金の週3日の作業になり、より良質な体外受精卵(新鮮卵)の提供が可能になります。しばらくの間、精液はこれから市場性に期待ができるHK187(勝早桜5)を中心に使っていく予定です。

.....

- ・今月から新人獣医師の茅野獣医師がわれわれの仲間に加わりました。小型ですがしっかりと自分自身の考え方を持った好青年です
皆様の期待に忘れられる獣医師に成長することができますように、今までの新人同様にみなさまの厳しくも暖かい対応をお願いいたします。

- ・先月の彼岸荒れの雪も解け、別海もようやく春めいてきました。彼岸荒れの猛吹雪の日は当社の獣医師が2組(富岡・位谷組と菅原・実習生組)事務所に戻ってくることができずに、顧客ではない酪農家さんに一晩泊めていただきました。それぞれに夕方の搾乳のお手伝い(牛遡いとエサ押し)をして、その夜はお風呂に入れていただき、ビール付きの夕食までいただいたと聞いています。それぞれの獣医師が次の日に無事に事務所に戻って来た時には、お世話になりました酪農家さんにただただ感謝の気持ちでした。
この場を借りまして改めてお礼申し上げます。

マネージメント情報 2014年4月

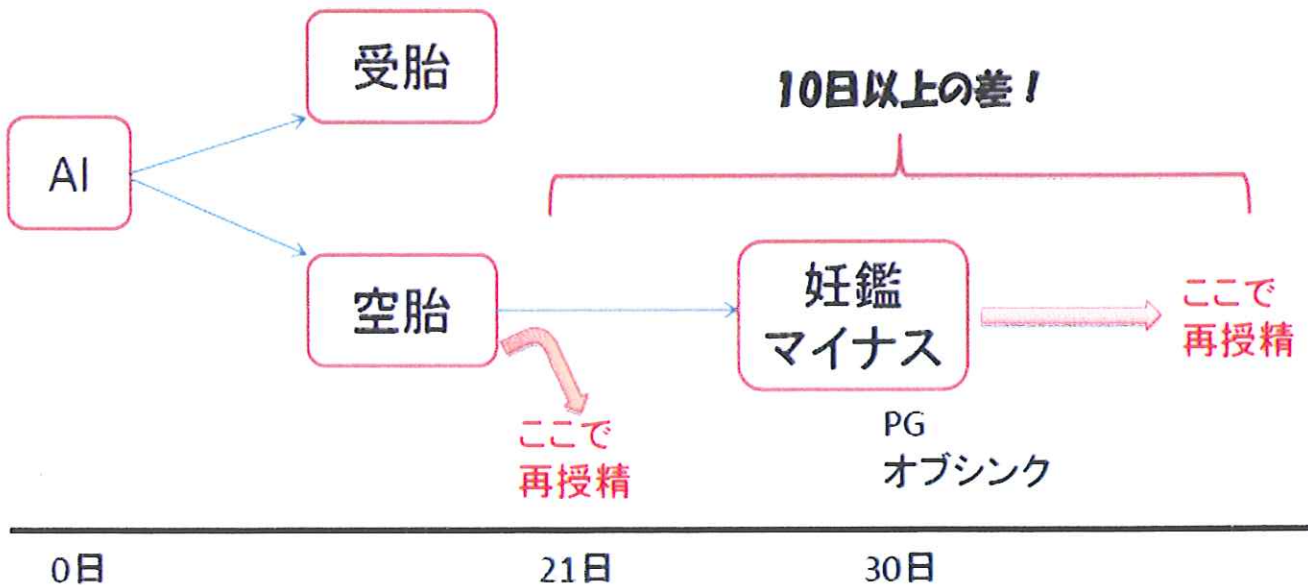
～ 再発情注意報 ～

● 現在の牧場の受胎率は？

様々な繁殖の情報通信や勉強会などで言われているように多くの牧場での受胎率は年々低下傾向にあります。現在、多くの牧場における受胎率は30~40%くらいでしょう。

● 一度授精した牛こそ発情を見つけるチャンス

受胎率が30~40%ということは強引に言い換えると3頭授精すれば2頭が不受胎で1周期後(21日前後)に再発情がくるといことです。再発がくる確率の方が高いと言えます。授精をしたからといって繁殖検診で妊娠鑑定になるまで待たず、積極的に周期を追って自然発情をみつけましょう。妊娠鑑定ができるのは30日くらいから。そこで妊鑑マイナスの牛がホルモン処置をして授精するのに最短でも数日かかります。再発を見つけていれば再授精の間隔を10日以上短縮できますし、発情発見率の上昇と空胎日数の低下につながるでしょう。特に発情発見率が低い(50%以下)牧場の場合、まずは再発を追うことから始めてみてはいかがでしょうか。



蛇足

● 遅れつつある発情周期

そうは言いつつも実は一般的な発情周期（19~24日）で発情がきている牛というのは全体の6割くらいと言われています。また牛の発情周期と言われると21日と答えますが、この21日も徐々に遅れ気味で、22~23日を中心に発情サイクルを繰り返す傾向にあるようです。

下記グラフは発情発見の優秀な2つの農場の一度授精してから再授精した日数の頭数をグラフにしたものですが、21日よりやや遅れていることが見て取れます。

